

グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

セクション 1. 基本情報

発行体名:	高砂熱学工業株式会社
グリーンボンド又はフレームワークの名称:	第3回無担保社債
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2019年6月14日
レビュー公表日:	2019年6月14日

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

注: 複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文への URL リンク

高砂熱学工業は、1923 年創業の空調設備工事最大手である。創業以来培ってきた室内空調制御やエネルギー最適利用における技術力に定評がある。オフィスビルをはじめとする一般空調からクリーンルームなどの産業空調まで幅広い分野に対応し、特に大規模オフィスビル工事に強みを有している。グループ会社とともに、あらゆる用途のビル、工場、施設に対し、空調設備の設計・施工からメンテナンス、運転管理、リニューアルまでのサービスをワンストップで提供している。

高砂熱学工業は、「環境エンジニアリングにより、脱炭素社会に向けて世界に貢献」することをグループの目指す未来と定め、その実現に向けて事業活動を推進している。環境に関しては、環境基本方針を制定した上で、「脱炭素社会の構築への貢献」「自然共生社会実現への貢献」「循環型社会形成への貢献」の活動目標に即して、具体的な活動内容を定め実行している。

今回評価対象の社債の資金使途は、高砂熱学工業が茨城県つくばみらい市で建設中の（仮称）イノベーションセンター（以下、イノベーションセンター）の建設ならびに設備費用等に係る新規投資である。これらの投資は全て ZEB をはじめとするグリーンビルディングの取得・建設資金である。当該建築の主要用途は環境エンジニアリングの研究開発・実証実験を行う研究施設であり、環境負荷低減への波及効果も期待される。JCR はイノベーションセンターに関する資料ならびに高砂熱学工業へのヒアリングから、高砂熱学工業が環境に対して生じうる負の影響に対して適切な回避策または緩和策を講じており、これらのプロジェクトに伴って環境改善効果を上回るような深刻な環境への負の影響が発生する可能性が低いことを確認した。以上から、JCR は本評価対象の資金使途の対象が高い環境改善効果を有すると評価している。

資金使途の対象は、専門部署が関与したうえで適切なプロセスを経て選定されていること、また資金管理は、社内システムを用いて未充当資金の管理が適切になされることなどから、JCR は本社債の資金使途となるグリーンプロジェクトへの管理運営体制が確立され、透明性も高いこと、加えて高砂熱学工業の経営陣が環境問題を重要度の高い優先課題として位置付けていることについて確認した。

以上より、本社債について JCR グリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性評価（資金使途）」の予備評価を“g1”、「管理・運営・透明性評価」の予備評価を“m1”とした。この結果、「JCR グリーンボンド」の予備評価を“Green 1”とした。

本社債はグリーンボンド原則 および環境省によるグリーンボンドガイドライン において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

評価レポート全文への URL リンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄:

a. プロジェクトの環境改善効果について

- i. 資金使途の 100%が、イノベーションセンター（オフィス棟: ZEB、全体: ZEB Ready 目標）の建設費用等に対する新規投資である。加えて当該建築は環境エンジニアリングの研究開発・実証実験を行うことによる環境負荷低減の波及効果も期待されることから、環境改善効果が高いプロジェクトである。
- ii. 資金使途の対象は、グリーンボンド原則または環境省のグリーンボンドガイドラインに定義されているグリーンプロジェクトのうち、「地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング」、「省エネルギー」に該当する。

b. 環境に対する負の影響について

JCR は高砂熱学工業が本社債の資金使途の対象となるイノベーションセンターの建築に際し、設計段階での地歴調査や地盤調査をはじめとする事前調査のほか、関係法令・条例にのっとり官公庁に対する各種届出・協議や周辺住民への説明会等を行い、環境に与えるネガティブな影響を抑制するよう配慮していることをヒアリングにより確認した。JCR は高砂熱学工業が環境に対して生じうる負の影響に対して、適切な回避策または緩和策を講じていると評価している。

GBP における資金使途の分類:

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input checked="" type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点において GBP 分類に該当することが予想される、または、まだ GBP 分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他 |

GBP 以外のタクソノミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄:

高砂熱学工業は資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。

当該事項は、JCR による評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴う ESG リスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | <input type="checkbox"/> その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄:

本社債の発行代わり金はイノベーションセンターの建設資金等に係る新規投資に対して全額が充当される予定であり、これ以外の目的に充当される予定はない。発行代わり金は現金または現金同等物にて管理し、2020年3月までに全額を充当予定である。2020年3月までに全て充当されない場合、高砂熱学工業はプレスリリース等で未充当資金の運用方法について説明を行う予定である。調達資金の充当状況は、経理財務部が社内システムを用いて追跡管理する。資金の執行稟議は都度経理財務部長が決裁するほか、当該資金管理は内部監査・外部監査の対象となっている。

調達資金の追跡管理:

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。 |
| <input type="checkbox"/> その他 |

追加開示事項:

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ | <input type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | <input type="checkbox"/> その他
既存投資への充当のみ |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄:

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

高砂熱学工業は、調達資金が全額充当されるまで、また、全ての調達資金が充当された後も大きな状況の変化があった場合は必要に応じ、資金充当された適格事業の概要及び事業に充当された金額と未充当額をウェブサイト上に公表する予定である。なお、本社債の発行代わり金は2020年3月までに全額充当される予定である。

b. 環境改善効果に係るレポーティング

高砂熱学工業は、本社債の償還まで年に1度、グリーンボンドフレームワークにおいて定めた環境改善効果を示す指標をウェブサイトにて開示予定である。なお、当該事業が稼働開始するまでは事業の進捗状況を開示する予定である。

資金使途のレポーティング:

- 個別プロジェクト・ベース
 個別債券への紐づけ
- プロジェクトのポートフォリオ・ベース
 その他

レポーティング情報:

- 充当金額
 その他:
- 総投資額に占めるグリーンボンドによる資金
充当の割合

頻度:

- 年に一度
 その他:
- 半年に一度

インパクトレポーティング:

- 個別プロジェクト・ベース
 個別債券への紐づけ
- プロジェクトのポートフォリオ・ベース
 その他

頻度:

- 年に一度
 その他
- 半年に一度

レポーティング情報 (理論値または実績値):

- GHG 排出量 / 削減量
 水使用削減量
- エネルギー削減量
 その他 ESG 指標
・環境認証の取得状況

開示方法

- 財務諸表における公表
 アドホック (非定期) 刊行物における公表
 レポーティングの外部レビュー
- サステナビリティレポートにおける公表
 その他:
ウェブサイトにおける公表

有用なリンク

高砂熱学工業の CSR に係る取り組み	https://www.tte-net.com/csr/index.html
JCR のグリーンボンド評価手法	https://www.jcr.co.jp/greenfinance/

外部レビューを受けた場合、その種類

- セカンド・オピニオン
 検証
 その他
- 認証
 スコアリング/格付け

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2019 年 6 月 14 日

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

1. **セカンド・パーティ・オピニオン**：環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
2. **検証**：発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は“検証”と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も“検証”と呼ぶことができる。
3. **認証**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
4. **グリーンボンドスコアリング・レーティング**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他 2 度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。